

税金で世界を支える

新城市立東郷中学校

1年 鈴木陽菜里

テニスクラブの練習に行く途中、山道を通っているとよく見かける「あいち森と緑づくり事業」という看板。気になって調べてみると、平成二十一年度に導入された「あいち森と緑づくり税」を活用して、手入れが行き届かない人工林の間伐や、放置された里山林の整備・保全、県民の参加による森や緑の保全活動や環境学習などの取り組みをする事業だと分かりました。

私の住む新城市は、市の面積の八十四パーセントが森林です。通っていた小学校の樹木園ではよくどんぐりなどを拾って遊んでいました。現在通う中学校も、学校の裏の森林が整備されマウンテンバイクが楽しめます。私にとって、森林は身近な存在であり、自慢です。一方で、学校に行く途中の山道の周りは間伐が行われていません。日が当たらない所や、竹が折り重なって倒れている所などがあります。新城市では、税金を使って地域住民の手によってこうした場所を整備しているということが分かりました。

調べていく中で、手入れした森林を荒らす害獣がいることも分かりました。手入れしたヒノキなどの樹皮や枝葉がシカやイノシシに食べられているのだそうです。動物達は私の祖父母の田畑にも現れます。祖父母に会うと、鳥獣による困り事をよく聞きます。この前は、実際に罠にかかったハクビシンを見せてもらいました。一生懸命育てた野菜が食べられてしまうのは、とても悲しいです。そこで、電気柵を取り付けたそうです。新城の農家の人達の多くは、害獣には困らされており、近所の田畑でも柵をよく目にします。こうした柵の設置のため、新城市では、「有害鳥獣防除補助金」という補助金が交付されています。安定した農林産物の生産ができるようにと、税金が使われています。祖父にこの税金の存在を知っているか尋ねてみました。すると、「もちろん知っているし、とても助かっているよ。」と話していました。

私は、小学校での税についての学習で、その仕組みや使われ方について知っていました。しかし、今回調べた事業は愛知県独自の税金や、新城市の現状に合った使われ方であり、まだまだ知らないことも多くあると分かりました。そして、以前より税金が身近に役立っていることを感じられました。多くの人が税金について関心をもち、積極的に活用することが大切なのだと知りました。

納税は人間だけでなく地域の環境も支えています。今は害獣として扱われている動物達とのよりよい関係も築けると思います。こうした豊かな未来を、私も一人の納税者として支えていきたいです。